

健康増進へ包括連携協定

県とアクサ生命保険(東京)は21日、健康増進や未来を担うことへの育成などで協力する包括連携協定を締結した。県内外に広がる同社のネットワークを活用した情報発信が期待される。

アクサは1817年にフランスで創業し、世界50の国と地域で保険と資産運用事業を展開。同社はその日本法人。県内8カ所全ての商工会議所の共済・福祉制度を引き受け、健康経営の普及推進に関する連携協定を締結。全国健

県とアクサ生命



包括連携協定を結んだ大石知事(左)と安瀬社長兼CEO(右)

康保険協会(協会けんぽ)長崎支部とも健康経営の普及で覚書を結んでいる。今後は県が開発した「ながさき健康づくりアプリ」の普及推進や、性の多様性の理解啓発に関するセミナー、ブライインドサッカー体験会なども実施する予定。

県庁で締結式があり、安瀬聖司社長兼CEOは「幅広い分野で協業する機会をいただいたことは誇り。全力で取り組む」とあいさつ。大石賢吾知事は「県内外に大きな組織力を持つ同社の知見やノウハウをお借りしながら、地方創生の推進に力を注ぎたい」と述べた。(中島崇雄)

ちゃんぽんレシピ提案を

アクサ生命保険の安瀬聖司社長兼CEOに包括連携協定の狙いや注力する項目について聞いた。

「県との包括連携協定の狙いは、

「長崎健康革命」を推進する。県が目指す「未来大国」の実現に向け、ダイバーシティ(多様性)への理解促進や金融経済教育の普及・推進に力を注ぐ。地域と産業を振興するため、事業承継に対する備えも啓発する。

「特に注力する項目は、健康づくりの推進。2024年の長崎県内の健康経営優良法人は119社で、そのうち51社を弊社がサポートしている。割合は約43%を上める。また「健康経営に取り組みたいがやり方がわからない」という企業経営者は多い。導入から実践まで支えていきたい。

「他の分野で具体策は、

「家庭で作れるちゃんぽん」をテーマに、地産食材を活用した野菜摂取の増量と減塩を目指すレシピを県に提案したい。健康と家事参加・分担を呼びかけるイベントや食育を通じて、企業や県民に「食」の啓発をしていく。県教育委員会と協働して高校生の金融経済教育もサポートする。ライフマネジメントの出前授業などを実践したい。

(聞き手は中島崇雄)